

【作者】王 勃（六五〇～六七六）・隋の学者、王通の孫。六歳にして文を作り、二十未満で進士に及第した秀才。しかし輕薄な行狀が天子の怒りを買い都から追われ、蜀川（今の四川省）の地を放浪した。あるとき役所の奴隸が死罪をおかして逃亡したのをかくまうたが、發覺を恐れて殺してしまつたのが露見し、死罪になるところを、恩赦により助けられた。この時、その罪に連座してベトナムに左遷された父を訪ねて行く途中、海に落ち、若くして死んだ。初唐四傑の一人。王子安集「十六卷」。

【通釈】滕王閣にてそのむかし滕王たてし高閣は江の渚にそびえ立てれど、玉を付け鈴を鳴らして樂しめる昔の歌舞はやみて久しき。美しき絵画でかざりし棟木より朝は南浦の飛雲が見えて、夕べには珠のすだれ巻上げて西の山雨（やまあめ）ながめしならん。

淵のうへ雲は靜かに影おとし日ごとのどかな姿なれども、物変はり星霜移りて高閣はいくたびの秋むかへて立つや。高閣の天子のみ子の滕王の姿は今はいづこにありや、手すりより長江見れば水はなほ空しく自づと流るるばかり。

【備考】註 滕王閣は唐の高祖の第二十二子、滕王元嬰の建てた樓閣で南昌市の西にあつた。